

平成 28年 4月 13日

報告番号 甲	第 号	氏 名	藤井 進
審 査 員	主 査	杉岡 隆	
	副 査	山下 秀一	
	副 査	栗岡 栄三朗	
論文題名	<p>題 名 Infectious Disease during Hospitalization is the Major Causative Factor for Prolonged Hospitalization: Multivariate Analysis of Diagnosis Procedure Combination (DPC) Data of 20,875 Cases in Japan</p> <p>雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁-頁, 発行西暦年 Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition (in press)</p>		
論文審査結果の 要旨	<p>本研究は、患者の予後や医療の質、あるいは医療経済において問題となる入院の長期化について、DPC データをもとに、その要因を検討したものである。</p> <p>佐賀大学医学部附属病院の2012年4月から2015年2月の20,869症例のDPCデータを用い、有意に在院日数が長いとされる期間3（平均在院日数+2SD）を超えた症例を長期化症例とし、単変量解析並びに多変量解析を用いてその要因を解析した。その結果、①年齢が高い、②ICUを利用、③糖尿病あり、④入院後に感染症を発症、において、有意に長期化と関連することが分かった。中でも入院後の感染症発症はオッズ比が2.89と強い関連がみられ、入院後の感染症発症の有無でその要因を同様に解析したところ、①年齢が高い、②ICUを利用、③糖尿病あり、が関連していることが分かった。これらの結果は、入院後の感染症制御が長期化対策という点からも重要であることを明らかにし、特に高齢者や糖尿病患者、ICU入室者では注意する必要があることを示した。</p> <p>また、本研究ではDPC診断群における期間3の設定日数の平均値についても多変量解析している。その結果、長期化症例では設定日数が有意に短く、設定日数の再検討の必要性について論じられていた。一方、入院後感染発症例では設定日数が有意に長く、重症疾患での設定日数の妥当性についても言及されていた。</p> <p>以上の結果は、これからの医療において益々重要な課題となる入院の長期化改善に向けて、有益な知見を提供するものであり、意義あるものと考えられる。</p> <p>よって本論文は、博士（医学）の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の結果の 要旨	<p>最終試験において、各審査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。</p>		
論文審査の結果	合格 不合格	最終試験の結果	合格 不合格
論文審査日	平成 28年 4月 13日	最終試験日	平成 28年 4月 13日
チェック <input checked="" type="checkbox"/>	論文審査において、研究指導計画書（研究実施経過報告書）を活用した。		

学位論文審査及び最終試験の結果等報告書

平成 28 年 5 月 11 日

報告番号 甲	第 号	氏 名	南里 麻己
審 査 員		主 査	相 島 慎 一
		副 査	城 戸 瑞 穂
		副 査	倉 岡 晃 夫
論文題名	題 名 Differential effects of adipose tissue stromal cells on the apoptosis, growth and invasion of bladder urothelial carcinoma between the superficial and invasive types 雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁一頁, 発行西暦年 International Journal of Urology, in press		
論文審査結果の 要旨	<p>癌細胞—間質細胞の相互作用は癌細胞の増殖、浸潤、転移に重要である。膀胱癌も増殖・浸潤する際に、膀胱筋層間や漿膜下層に存在する脂肪組織の間質細胞 (Adipose tissue stromal cell; ATSC) が癌細胞に与える影響はいまだ不明であり、膀胱癌と脂肪組織間質細胞の相互作用について検討した。</p> <p>本研究では、脂肪組織から単離した ATSC を包埋したコラーゲン・ゲル上に膀胱癌細胞株 2 種 (表在型尿路上皮癌; RT4 と浸潤型尿路上皮癌; EJ) を播種し、混合培養させ、免疫組織化学染色、Western blot、RT-PCR を用いて細胞動態を評価し、ゲル内の浸潤についても評価した。その結果、ATSC は表在型癌の増殖を抑制し、アポトーシスを促進したが、浸潤型癌では増殖を促進しアポトーシスを抑制した。また ATSC は表在型癌、浸潤型癌ともに MAPK 経路の発現を亢進したことから、MAPK 経路の役割が相反することが示唆された。膀胱癌細胞が ATSC に与える影響については、表在型癌では ATSC の Myofibroblast への分化を促進し、浸潤型癌では preadipocyte への分化を促進した。</p> <p>以上の結果は、脂肪組織の間質細胞による MAPK 経路が表在型と浸潤型の膀胱癌において異なる役割を果たすことを示しており、膀胱癌と間質細胞相互作用における新たな知見であると考えられる。よって本論文は、博士 (医学) の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の結果 の要旨	最終試験において、各審査員より専門的な観点から、論文内容に関連した事項、実験データの解釈、解析方法について質問がなされ、いずれも的確な回答を得た。したがって審査員合議のうえ、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。		
論文審査の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格 <input type="radio"/> 不合格	最終試験の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格 <input type="radio"/> 不合格
論文審査日	平成 28 年 5 月 11 日	最終試験日	平成 28 年 5 月 11 日
チェック ■	論文審査において、研究指導計画書 (研究実施経過報告書) を活用した。		

平成 28 年 5 月 16 日

報告番号 甲	第 号	氏 名	錦戸 利幸
審 査 員	主 査	伊田 修二	
	副 査	長川 浩三郎	
	副 査	琴岡 秀行	
論文題名	<p>題 名 Deletion of AIM/CD5L attenuates the inflammatory response and infarct size in acute myocardial infarction</p> <p>雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁-頁, 発行西暦年 Journal of the American Heart Association (2016 in press)</p>		
論文審査結果の 要旨	<p>急性心筋梗塞後の TLR-4 を介する過剰な炎症反応が心筋障害を促進する。一方、マクロファージが産生する apoptosis inhibitor of macrophage (AIM) は、脂肪細胞から遊離脂肪酸 (FFA) を放出させ、TLR-4 を介した炎症反応を誘導する。しかし、急性心筋梗塞後の心筋障害におけるこれらの分子の関連は不明である。本論文は AIM 欠損マウスにおいて、心筋梗塞後の心筋障害が抑制されることを述べている。</p> <p>野生型、AIM 欠損マウスに冠動脈結紮により心筋梗塞を作成し、発症 3 日後の炎症反応 (NFκB, 好中球浸潤, 活性酸素) と梗塞巣サイズを比較検討した。発症 28 日後に、心筋リモデリング (心重量, 超音波による心機能, 線維化) を解析した。</p> <p>AIM 欠損マウスでは、梗塞サイズが有意に減少し、血中 FFA, TLR-4 を介した炎症反応が抑制された。さらに、AIM 欠損マウスでは、心収縮能が維持され、梗塞後の心重量増加, 線維化が有意に抑制された。</p> <p>以上の結果は、AIM を標的とした急性心筋梗塞後の心不全抑制療法の可能性を示唆しており、虚血性心疾患学に新しい知見を加えたものであり、意義あるものと考えられる。</p> <p>よって本論文は、博士 (医学) の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の結果 の要旨	<p>最終試験において、各審査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。</p>		
論文審査の結果	<input checked="" type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 不合格	最終試験の結果	<input checked="" type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 不合格
論文審査日	平成 28 年 5 月 16 日	最終試験日	平成 28 年 5 月 16 日
チェック <input checked="" type="checkbox"/>	論文審査において、研究指導計画書 (研究実施経過報告書) を活用した。		




学位論文審査及び最終試験の結果等報告書

平成28年8月17日

報告番号 甲	第 号	氏 名	川久保 洋晴
審 査 員	主 査	市場 正良	
	副 査	本岡 榮三朗	
	副 査	野田 孝一	
論文題名	<p>題 名 Upper gastrointestinal symptoms are more frequent in female than male young healthy Japanese volunteers as evaluated by questionnaire</p> <p>雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁一頁, 発行西暦年 Journal of Neurogastroenterology and Motility, Vol 22, No 2, 248-253, 2016</p>		
論文審査結果の 要旨	<p>一般外来において成人では, 男性に比べ女性が臨床症状を多く訴える印象があり, 実際本邦での年齢階級別にみた有訴者率は20歳代を境に女性の割合が高い。本研究では, 上部消化管内視鏡検査にて器質的疾患を認めない若年者においても同様の傾向があるかを調査した。2007年~2013年に, 佐賀大学医学部学生健康ボランティア 581名(22~30歳)に対し, 上部消化管内視鏡検査, アンケート(Frequency Scale for the Symptoms of GERD : FSSG), ヘリコバクターピロリ尿中抗体測定を行った。その結果, ヘリコバクターピロリ非感染者かつ上部消化管内視鏡検査にて器質的疾患のない若年者において, 女性により多くの症状の訴えを認めた。症状について酸逆流関連症状では男女差は認めなかったが, 運動不全症状項目については女性により多くの訴えを認めた。このことから, 器質的疾患を認めない若年者でも女性により多くの上部消化管症状があることが示された。男女の訴えの差が消化不良有病率と関連している可能性がある。</p> <p>以上の成績は, 臨床症状と疾患との関係について, 新しい知見を加えたものであり, 意義あるものと考えられる。よって本論文は, 博士(医学)の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の結果 の要旨	<p>最終試験において, 各審査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが, いずれについても適切な回答を得た。</p> <p>よって, 審査員合議のうえ, 大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。</p>		
論文審査の結果	<input checked="" type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 不合格	最終試験の結果	<input checked="" type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 不合格
論文審査日	平成28年8月17日	最終試験日	平成28年8月17日
チェック <input checked="" type="checkbox"/>	論文審査において, 研究指導計画書(研究実施経過報告書)を活用した。		




学位論文審査及び最終試験の結果等報告書

平成 28年 8月 9日

報告番号 甲	第 号	氏 名	田 代 宏 樹
審 査 員		主 査	吉田 裕樹 
		副 査	青木 洋介 
		副 査	戸田 修二 
論文題名	<p>題 名 Interleukin-33 from monocytes recruited to the lung contributes to house dust mite-induced airway inflammation in a mouse model.</p> <p>雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁-頁, 発行西暦年 PLOS ONE, accepted</p>		
論文審査結果の 要旨	<p>本論文は、気道炎症における単球に由来するインターロイキン (IL-) 33 の役割を検討したものである。</p> <p>これによると、IL-33 は気道上皮細胞、II 型肺胞上皮細胞、樹状細胞などから産生され、2 型免疫を誘導することによりアレルギー性の気道炎症に関与する。House dust mite (HDM; ダニ) 抗原を用いたマウスにおけるアレルギー性気道炎症モデルにおいて、IL-33 産生は有意に上昇し、免疫染色法により、IL-33 が単球に強く発現していることが示された。単球除去の目的で、クロドロン酸封入りボソームで処理したマウスにおいては、IL-33 の上昇が抑えられ、気道炎症や2 型免疫に関わるサイトカイン産生が抑制されていた。</p> <p>以上の成績は、アレルギー性気道炎症における単球と単球由来 IL-33 の重要性について新しい知見を加えたものであり、意義あるものと考えられる。</p> <p>よって本論文は、博士(医学)の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の結果 の要旨	<p>最終試験において、各審査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。</p>		
論文審査の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格 <input type="radio"/> 不合格	最終試験の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格 <input type="radio"/> 不合格
論文審査日	平成 28年 8月 9日	最終試験日	平成 28年 8月 9日
チェック <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>	論文審査において、研究指導計画書 (研究実施経過報告書) を活用した。		

学位論文審査及び最終試験の結果等報告書

平成28年12月8日

報告番号 甲	第 号	氏 名	森 啓輔
審 査 員	主 査	熊 本 栄 一	
	副 査	吉 田 裕 樹	
	副 査	藤 田 亜 美	
論文題名	題 名 Effects of ZD0947, a novel and potent ATP-sensitive K ⁺ channel opener, on smooth muscle-type ATP-sensitive K ⁺ channels 雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁-頁, 発行西暦年 European Journal of Pharmacology, 791, 773-779, 2016		
論文審査結果の 要旨	<p>本論文は、内向き整流特性を持つ K⁺チャンネルサブユニット (Kir6.1, Kir6.2) とスルフォニル尿素受容体 (SUR1, SUR2A, SUR2B) を HEK293 細胞に強制発現させて記録される ATP 感受性 K⁺チャンネル (K_{ATP} チャンネル) 電流に及ぼす ZD0947 の作用をパッチクランプ法の1つである cell-attached 法を用いて調べている。</p> <p>これによると、ZD0947 は濃度依存的に SUR2B/Kir6.2 チャンネルや SUR2B/Kir6.1 チャンネルを強く活性化したが、SUR1/KIR6.2 および SUR2A/Kir6.2 チャンネルの活性化能は弱かった。一方、ZD0947 は diazoxide による SUR1/Kir6.2 チャンネルの活性化、また、pinacidil による SUR2A/Kir6.2 活性化を可逆的に抑制した。しかしながら ZD0947 は pinacidil (100 μM) による SUR2B/Kir6.2 の最大活性化には影響を及ぼさなかった。また、Kir6.2 のアミノ酸の一部を欠損させたサブユニット Kir6.2 ΔC26 およびこの変異サブユニット Kir6.2 ΔC26C166A によるチャンネル活性には ZD0947 はほとんど影響を及ぼさなかった。</p> <p>以上の結果は、ZD0947 は平滑筋型 K_{ATP} チャンネル (SUR2B/Kir6.2 や SUR2B/Kir6.1) の有効な開口薬である一方、膵臓型 K_{ATP} チャンネル (SUR1/Kir6.2) や心筋型 K_{ATP} チャンネル (SUR2A/Kir6.2) の部分的な阻害薬であることを示している。このことは ZD0947 が K_{ATP} チャンネルを構成するスルフォニル尿素受容体の違いにより開口薬や阻害薬になることを示唆している。すなわち、この研究は、K_{ATP} チャンネルに及ぼす ZD0947 の作用について、新しい知見を加えたものであり、意義あるものと考えられる。</p> <p>よって本論文は、博士 (医学) の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の結果 の要旨	最終試験において、各審査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。 よって、審査員合議のうえ、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。		
論文審査の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格 <input type="radio"/> 不合格	最終試験の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格 <input type="radio"/> 不合格
論文審査日	平成28年12月8日	最終試験日	平成28年12月8日
チェック <input checked="" type="checkbox"/>	論文審査において、研究指導計画書 (研究実施経過報告書) を活用した。		

学位論文審査及び最終試験の結果等報告書

平成 28 年 8 月 8 日

報告番号 甲	第 号	氏 名	板村 英和
審 査 員	主 査	末岡 榮三朗	末岡 榮三朗 (印)
	副 査	寺本 憲功	寺本 憲功 (印)
	副 査	吉田 裕樹	吉田 裕樹 (印)
論文題名	題 名 The MEK Inhibitor Trametinib Separates Murine Graft-versus-Host Disease from Graft-versus-Tumor Effects 雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁-頁, 発行西暦年 JCI insight, 2016 In press		
論文審査結果の 要旨	<p>本論文は同種造血幹細胞移植において、これまでは移植片対宿主病 (Graft-versus-Host Disease :GVHD) の随伴反応と考えられてきた抗腫瘍免疫 (Graft-versus-Tumor :GVT 効果) を MEK 阻害剤 trametinib によって選択的に誘導できるかについて検証している。</p> <p>論文においては、まず複数のマウス GVHD モデルに trametinib、あるいはカルシニューリン阻害剤 tacrolimus を投与し免疫抑制効果を解析した。その結果 GVHD 発症群と比較して trametinib 投与群では有意に生存が延長し、GVHD 徴候および病理組織学的障害が軽減された。GVT 効果に対する trametinib の効果については、腫瘍細胞株 P815 を輸注したモデルで、trametinib はドナー T 細胞輸注による GVT 効果を増強し、かつ GVHD 徴候も軽減した。</p> <p>以上の結果は、MEK 阻害剤である trametinib は選択的に GVHD を抑制する一方で、腫瘍特異的 T 細胞には影響を及ぼさず、既存の薬剤と比較しても有意に GVT 効果を温存することが示された。</p> <p>造血幹細胞移植において、重度の GVHD は治療関連死につながるため、GVT 効果のみを誘導でき GVHD を抑制できる移植後免疫調整方法の開発が望まれていた。今回 MEK 阻害剤として臨床応用されている trametinib が選択的に GVHD を抑制し、GVT は増強することを初めて示した画期的な研究成果である。</p> <p>よって本論文は、博士 (医学) の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の結果の 要旨	<p>最終試験において、各審査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。</p>		
論文審査の結果	<input checked="" type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 不合格	最終試験の結果	<input checked="" type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 不合格
論文審査日	平成 28 年 8 月 8 日	最終試験日	平成 28 年 8 月 8 日
チェック ■	論文審査において、研究指導計画書 (研究実施経過報告書) を活用した。		

学位論文審査及び最終試験の結果等報告書

平成28年12月7日

報告番号 甲	第 号	氏 名	村上 (旧姓 野口) 亜紀子
審 査 員	主 査	松尾 景明	
	副 査	芝金 尚子	
	副 査	伊藤 雄一郎	
論文題名	<p>題 名 Changes in uncuffed endotracheal tube leak during laparoscopic inguinal herniorrhaphy in children</p> <p>雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁-頁, 発行西暦年 Journal of Anesthesia, 30(4), 702-706, 2016</p>		
論文審査結果の 要旨	<p>本論文は、小児の腹腔鏡手術の際のカフなし気管内チューブのエアリークの変化について述べている。</p> <p>方法としては、1-6歳までの腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術（体位は頭低位）施行患者31名を対象に、術中のチューブリークを人工呼吸開始後、手術開始前、気腹時および手術終了後に測定し、同時にリーク圧（チューブリーク音が発生する最小気道内圧）も測定し、継時的変化を調査している。これによると、チューブリークは気腹時に有意に減少し、リーク圧は気腹時及び手術終了後に有意に上昇した。これまでチューブリークは気腹時の気道内圧上昇によって増加すると考えられていたが、本研究では逆の結果であった。これは気腹、頭低位による気管の形態変化および粘膜浮腫に伴ってリーク圧が上昇するためではないかと考察した。</p> <p>以上の成績は、小児のカフなし気管内チューブと気腹時のエアリークの関係について、新しい知見を加えたものであり、意義あるものと考えられる。</p> <p>よって本論文は、博士（医学）の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の結果 の要旨	<p>最終試験において、各審査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。</p>		
論文審査の結果	<input checked="" type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 不合格	最終試験の結果	<input checked="" type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 不合格
論文審査日	平成28年12月7日	最終試験日	平成28年12月7日
チェック <input checked="" type="checkbox"/>	論文審査において、研究指導計画書（研究実施経過報告書）を活用した。		

学位論文審査及び最終試験の結果等報告書

平成28年5月6日

報告番号 甲	第 号	氏 名	野口 宣人
審 査 員	主 査 阪本 雄一郎		
	副 査 田 判 康 子		
	副 査 市 場 正 良		
論文題名	題 名 Factors Associated with Nursing Activities in Humanitarian Aid and Disaster Relief 雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁一頁, 発行西暦年 PLOS ONE, 11 (3), e0151170. doi:10.1371/journal.pone.0151170. eCollection 2016.		
論文審査結果の 要旨	<p>本研究は人道支援や災害救援活動において重要な役割を果たしている看護師の活動が27種類に分けられそのうち10種類の頻度が高かったと述べている。また、著者らが定めている看護活動スコアへの影響因子としては、看護資格が正看護師、災害医療のトレーニング受講回数が2回以上、発災後の経過時期が3週間以上であることの3項目という結果を導いている。</p> <p>以上の結果は、人道支援や災害救援活動における看護活動の質を向上させるうえで有益な結果であるとともに今後、エビデンスに基づいた災害医療の教育やトレーニングの構築を行なううえで重要な結果であると考えられる。</p> <p>よって、本論文は博士（医学）の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の結果 の要旨	<p>最終試験において、各審査員より専門的な観点より論文内容及び論文の内容に関連した事項に関して種々の質問を行なった。その結果、いずれにおいても適切な回答を得た。</p> <p>よって、審査員合議の上、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。</p>		
論文審査の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格 <input type="radio"/> 不合格	最終試験の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格 <input type="radio"/> 不合格
論文審査日	平成28年5月6日	最終試験日	平成28年5月6日
チェック <input checked="" type="checkbox"/>	論文審査において、研究指導計画書（研究実施経過報告書）を活用した。		

学位論文審査及び最終試験の結果等報告書

平成 28 年 11 月 28 日

報告番号 甲	第 号	氏 名	西田 有毅
審 査 員		主 査	末岡 榮三朗
		副 査	副島 英伸
		副 査	平田 修二
論文題名	題 名 Preclinical activity of the novel B-cell-specific Moloney murine leukemia virus integration site 1 inhibitor PTC-209 in acute myeloid leukemia : Implications for leukemia therapy Cancer Science, 106 巻 p1705-1713, 2015		
論文審査結果の 要旨	<p>急性骨髄性白血病(AML)において、BMI-1 の高発現が予後不良と相関するとの臨床データに基づき、BMI-1 の発現量を抑制する化合物 PTC-209 による、抗腫瘍効果を解析した論文である。</p> <p>511 名の新規に診断された AML 患者細胞における BMI-1 タンパク発現を逆相タンパクアレイ (RPPA) で測定し、予後との関連を調べたところ、BMI-1 が高い患者は有意に全生存期間が劣った。その結果をもとに、BMI-1 阻害剤 PTC-209 の AML 細胞株及び患者細胞におけるアポトーシス誘導効果を調べ、患者細胞においては AML 幹細胞を含む CD34+CD381^{low} 分画における効果も検討し、更に PTC-209 による BMI-1 の低下とアポトーシス誘導の関連性を検討している。</p> <p>PTC-209 は AML 細胞株の BMI-1 タンパクレベルを減弱し、ミトコンドリアを介したアポトーシスを誘導した。患者 AML 細胞において PTC-209 は濃度依存性にアポトーシスを誘導し、CD34+CD381^{low} 分画細胞は CD34 細胞と比してより感受性が高く、CD34+細胞では BMI - 1 の低下はアポトーシスの程度を反映した。</p> <p>以上の結果から BMI - 1 高発現は AML の予後不良因子であり、BMI - 1 阻害は AML 幹細胞を駆逐する新たな治療戦略となり得る可能性が示唆された。</p> <p>以上の成績(結果)は 難治性白血病の新しい治療法の可能性を示した有望な新知見であり、本論文から、博士(医学)の学位論文として価値ありものと認められた。</p>		
最終試験の結果 の要旨	<p>最終試験において、各審査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。</p>		
論文審査の結果	合格 不合格	最終試験の結果	合格 不合格
論文審査日	平成 28 年 11 月 28 日	最終試験日	平成 28 年 11 月 28 日
チェック <input checked="" type="checkbox"/>	論文審査において、研究指導計画書(研究実施経過報告書)を活用した。		

学位論文審査及び最終試験の結果等報告書

平成 29 年 2 月 7 日

報告番号 甲	第 号	氏 名	松田 憲亮
審 査 員	主 査	川口 淳	
	副 査	阿司 光	
	副 査	浅見 豊子	
論文題名	<p>題 名</p> <p>Factors influencing executive functions by physical activity level among young adults : a near-infrared spectroscopy study.</p> <p>Journal of physical therapy science, in press</p>		
論文審査結果の 要旨	<p>本論文では若年成人期の認知機能スコアに影響する因子の検討と身体活動レベルによる実行機能の活動性の違いを検討した。</p> <p>健常大学生 40 名を認知機能スコアによって、認知機能 HIGH 群と LOW 群に編成した。BMI、知能指数、身体活動、ライフスタイル等について 2 群間の比較検討を行い、認知機能スコアの関連要因を分析した。また歩数により対象者を高、中、低の 3 つの身体活動レベルに分け、ストループ課題と近赤外分光法を用いて、実行機能関連領域の活動性について比較検討した。</p> <p>若年成人期の認知機能スコアへの影響因子として、全知能指数 (FIQ) と歩数が多重ロジスティック回帰モデルにより抽出された。ストループ課題中の実行機能関連領域 Oxy-hemoglobin 濃度は、身体活動低群と比較して高群で有意に増加した事を多重検定により示した。</p> <p>こうして、身体活動の重要性が示唆された。高い身体活動は脳活動、血管新生や神経新生に関与すると報告されており、若年成人期においても注目すべき要因を明らかにしたものであり、意義あるものと考えられる。</p> <p>よって本論文は、博士 (医学) の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の結果 の要旨	<p>最終試験において、各審査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。</p>		
論文審査の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格 <input type="radio"/> 不合格	最終試験の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格 <input type="radio"/> 不合格
論文審査日	平成 29 年 2 月 7 日	最終試験日	平成 29 年 2 月 7 日
チェック <input checked="" type="checkbox"/>	論文審査において、研究指導計画書 (研究実施経過報告書) を活用した。		

平成29年2月3日

報告番号 甲	第 号	氏 名	荒木 薫
審 査 員	主 査	青木 洋介	
	副 査	宮本 比呂志	
	副 査	尾崎 岩太	
論文題名	Estimating rotavirus vaccine effectiveness in Japan using a screening method. Human Vaccine and Immunotherapeutics, 12 (5), 1244 - 1249, 2015		
論文審査結果の 要旨	<p>本論文は、rotavirus vaccine (RV) のワクチン接種率とその有効性を検証する疫学的研究の結果をまとめたものである。</p> <p>本研究は screening 法 (Case-population study) を用いて行われた。即ち、RV 迅速検査を受けた患児群において RV ワクチンを接種していた割合 (PPV) と、検査陽性者 (case) において同ワクチンを接種していた割合 (PCV) を基に、ワクチン効果 (VE) = $(PPV-PCV) / [PPV (1-PCV)]$ が算出された。RV 接種率は同ワクチンの出荷数と人口動態統計による同期間の出生数から算出された (研究機関 2011/12 シーズン、および 2012/13 シーズン)。</p> <p>研究期間内の佐賀県の PPV は 14.9%であった (WHO や UNICEF による global coverage にほぼ一致している)。RV 感染症と診断された患児の PCV は 5.1%、入院を要した患児の PCV は 1.9%であり、このことから RV 感染症全般の VE は 69.5%であり、RV 感染症による入院をアウトカムとした場合の VE は 88.8%であった。また、ワクチン接種に公的助成のある地域での RV 接種率は佐賀県全体 (平均) の接種率の2倍であった。</p> <p>以上の研究結果は RV ワクチンの普及・啓発を行って行く際の戦略あるいは評価手法となり、VPD (vaccine preventable disease) の医療政策に貢献すると考えられる。よって本論文は、博士 (医学) の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の結果 の要旨、	<p>最終試験において、各審査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。</p>		
論文審査の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格 <input type="radio"/> 不合格	最終試験の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格 <input type="radio"/> 不合格
論文審査日	平成29年2月3日	最終試験日	平成29年2月3日
チェック <input checked="" type="checkbox"/>	論文審査において、研究指導計画書 (研究実施経過報告書) を活用した。		

学位論文審査及び最終試験の結果等報告書

平成 29 年 2 月 1 日

報告番号 甲	第 号	氏 名	上野 雅也
審 査 員	主 査	山下 佳雄	
	副 査	平田 修二	
	副 査	青木 洋介	
論文題名	題 名 Silver-containing Hydroxyapatite coating reduces biofilm formation by Methicillin-resistant <i>Staphylococcus aureus</i> in vitro and in vivo. 雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁-頁, 発行西暦年 BioMed Research International (in press)		
論文審査結果の 要旨	<p>本論文は, 銀含有ハイドロキシアパタイト溶射技術にて抗菌性を持たせたインプラントにメチシリン耐性黄色ブドウ球菌が形成するバイオフィルムの形成を阻害できるかを検討した論文である。</p> <p>4種類の銀の配合割合(0~3%)を含有したHAを, チタンインプラント表面に溶射し試験片を作製した。<i>in vitro</i>実験としてバイオフィルム形成MRSAに対する各試験片の抗菌性能を検討したところ, MRSAバイオフィルム被覆率(BCR)は, 銀の濃度依存的に減少を認めた。最も成績の良好であった3%銀HAコーティング試験片を用いて<i>in vivo</i>における実験を行った。ラット皮下に試験片を移植しMRSA由来のBCRを測定したところ, コントロールのHA片と比較し有意にBCRの値が低値であった。さらに銀の副作用であるargyriaについては, 銀HAコーティング片の移植部位に認められなかった。</p> <p>以上の結果から, 3.0%銀含有HAを溶射したチタンにおいては, 生体に障害を起こすことなくMRSA由来のバイオフィルム形成を阻害できることを示しており, 臨床的にも本組成で加工をしたインプラント体を生体に用いることで術後感染を減少させることを示唆した意義ある報告である。</p> <p>よって本論文は, 博士(医学)の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の結果 の要旨	最終試験において, 各審査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行い, いずれについても適切な回答を得た。審査員合議のうえ, 大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。		
論文審査の結果	合格	最終試験の結果	合格
論文審査日	平成 29 年 2 月 1 日	最終試験日	平成 29 年 2 月 1 日
チェック ■	論文審査において, 研究指導計画書(研究実施経過報告書)を活用した。		

学位論文審査及び最終試験の結果等報告書






平成 29 年 3 月 7 日

報告番号 甲	第 号	氏 名	釘本とよ子
審 査 員		主 査	佐藤 武
		副 査	新地 浩一
		副 査	古賀 明美
論文題名	<p>題 名 Significance of Psychological Stress Response and Health-Related Quality of Life in Spouses of Cancer Patients When Given Bad News</p> <p>雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁一頁, 発行西暦年 Asia-Pacific Journal of Oncology Nursing (accepted on Dec 14, 2016)</p>		
論文審査結果の 要旨	<p>本論文は, bad news を伝えられたがん患者の配偶者の 3 つの告知時期 (病名告知時・再発告知時・終末告知時) における心理的ストレス反応の程度, その影響要因, 健康関連 QOL を測定することにより, 配偶者の健康状態を明らかにすることができたと述べている。</p> <p>本研究では, 3 つの告知時期に該当する配偶者 203 名 (男性 57 名, 女性 146 名) に対し, 心理的ストレス反応測定尺度・夫婦関係満足尺度・健康関連 QOL 尺度を用いた自記式質問紙票による調査を行った。</p> <p>その結果では, 心理的ストレス反応の程度は, 終末告知時が高く, ついで病名告知時, 再発告知時であった。その影響要因は, 告知時期によって異なっていた。健康関連 QOL は 3 つ の時期間で有意差を認めなかったが, 国民標準値と比較すると告知時期別に有意差を認める項目がみられた。</p> <p>以上の成績は, 心理的ストレス反応が最も高くなる終末期の告知に際しては, 患者だけでなく配偶者に対しても健康関連 QOL に配慮したケアが必要であることが明らかになり, 意義あるものと考えられた。</p> <p>よって本論文は, 博士 (医学) の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の結果の 要旨	<p>最終試験において, 各審査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが, いずれについても適切な回答を得た。</p> <p>よって, 審査員合議のうえ, 大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。</p>		
論文審査の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格 <input type="radio"/> 不合格	最終試験の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格 <input type="radio"/> 不合格
論文審査日	平成 29 年 3 月 7 日	最終試験日	平成 29 年 3 月 7 日
チェック <input checked="" type="checkbox"/>	論文審査において, 研究指導計画書 (研究実施経過報告書) を活用した。		

平成29年3月3日

報告番号 甲	第 号	氏 名	藤 原 信 治
審 査 員	主 査	藤 戸 博	
	副 査	梶 地 裕	
	副 査	琴 岡 新 幸	
論文題名	題 名 Association between Blood Pressure Lowering and Quality of Life by Treatment of Azilsartan 雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁-頁, 発行西暦年 International Heart Journal, in press.		
論文審査結果の 要旨	<p>本論文は, 従来のアンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬 (ARB) にて降圧不十分な症例に対して, 同じ ARB で降圧効果が高いとされるアジルサルタンに切替えて降圧強化療法を行い, その血圧, および EuroQOL5 項目法 (EQ5D), ピッツバーグ睡眠の質指数 (PSQI), 老年期うつ病評価尺度 (GDS), 簡易更年期指数 (SMI) などの健康関連 QOL (HR-QOL) 指標への影響を評価したものである。</p> <p>従来の ARB 治療で目標血圧未到達の 147 例 (男性 64 例, 女性 83 例, 73±15 歳) に対して, アジルサルタンに切替えて 3 ヶ月間投与した結果, 血圧は 151±16/82±12mmHg から 134±17/73±12mmHg へ有意に低下した。また, GDS は優位に改善し, PSQI は女性のみ有意に改善した。GDS の改善は収縮期血圧の低下と有意な正相関を示し, 更に, 登録時の各 HR-QOL 指標が不良な群において, 切替えによりいずれの指標も有意に改善した。</p> <p>以上の結果から, 従来の ARB で降圧不十分な症例に対して, アジルサルタンによる降圧強化療法に切替えることにより, HR-QOL を悪化することなく血圧の低下が得られ, また, 一部の患者においては HR-QOL が有意に改善することが示唆された。これは適切な降圧療法の妥当性を HR-QOL の観点からも支持したもので, 意義あるものと考えられる。</p> <p>よって本論文は, 博士 (医学) の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の結果 の要旨	<p>最終試験において, 各審査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが, いずれについても適切な回答を得た。</p> <p>よって, 審査員合議のうえ, 大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。</p>		
論文審査の結果	合格 不合格	最終試験の結果	合格 不合格
論文審査日	平成 29 年 3 月 2 日	最終試験日	平成 29 年 3 月 2 日
チェック ☑	論文審査において, 研究指導計画書 (研究実施経過報告書) を活用した。		

平成 29 年 3 月 7 日

報告番号 甲	第 号	氏 名	小網 博之
審 査 員		主 査	出原 賢治 
		副 査	相島 慎一 
		副 査	戸田 修二 
論文題名	題 名 Haptoglobin reduces inflammatory cytokine IFN- γ and facilitates clot formation in acute severe rat model 雑誌名, 巻 (号のみの雑誌は号), 頁一頁, 発行西暦年 Journal of Nippon Medical School, in press		
論文審査結果の 要旨	<p>ハプトグロビンは大量溶血に伴う血尿を改善し、腎保護作用があることが示されているが、他の効果に関する報告は乏しい。本研究では、ラット重症熱傷モデルを用いてハプトグロビンの抗炎症作用ならびに凝固線溶系に対する効果を解析した。</p> <p>約 30%の全層熱傷モデルをラットに作成し、低用量 (80 U/kg) ならびに高用量 (400 U/kg) のハプトグロビン投与に対する血尿の程度、各サイトカイン量、各凝固能検査、thromboelastometry (ROTEM) を用いた全血凝固能検査、病理学検査を検討あるいは遂行した。</p> <p>ハプトグロビンは 24 時間後の遊離ヘモグロビンを低下させ血尿を改善した。また、各炎症性サイトカインの中で特に IFN-γ を低下させた。凝固能では血栓硬度を増加させ、血栓形成速度を促進させた。臓器保護効果は認められなかった。</p> <p>以上の結果は、ラット重症熱傷モデルにおいて、ハプトグロビンは、抗炎症作用ならびに抗凝固作用を持つことを示しており、ハプトグロビンの熱傷に対する効果を理解する上で有用なものであると考えられた。</p> <p>よって本論文は、博士(医学)の学位論文として価値あるものと認められた。</p>		
最終試験の結果 の要旨	<p>最終試験において、各審査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。</p> <p>よって、審査委員合議のうえ、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。</p>		
論文審査の結果	 合格 不合格	最終試験の結果	 合格 不合格
論文審査日	平成 29 年 3 月 7 日	最終試験日	平成 29 年 3 月 7 日
チェック <input checked="" type="checkbox"/>	論文審査において、研究指導計画書 (研究実施経過報告書) を活用した。		

平成29年3月8日

報告番号 甲	第 号	氏 名	木村 孝
審 査 員	主 査	田 渕 康 子 (田)	
	副 査	馬 渡 正 明 (馬)	
	副 査	古 川 浩 二 郎 (古)	
論文題名	題 名 Discrimination of hie and hiesho using toe blood pressure in young women 若年女性を対象にした足指血圧を用いた冷えと冷え症の判別 Journal of Integrative Medicine, 14(6), 436-446, 2016.		
論文審査結果の 要旨	<p>本研究は、女性に多くみられる自覚症状の1つである“冷え”について、主観的評価、および、冷えの要因の一つと考えられる四肢末梢循環の側面から検証し、主観的評価に加えて客観的評価の症状の定量化を図ることを目的としている。</p> <p>対象は、“冷え”症状を来す基礎疾患を有しない健康な女性159名で、既存の質問票を用い、冷え自覚群(81名)と健常群(78名)に分け、主観的評価の信頼性を検証している。その結果、一定の割合で、自覚症状は“冷え”の判別に有効であることが証明された。しかし、ロジスティック回帰分析、ROC曲線、多重比較、χ^2検定などの結果を総合的に判断し、主観的評価では、冷性症状の判別としては十分な信頼性があるとは言い難い結果であった。</p> <p>そこで、次に、客観的な指標による“冷え”の定量化のため、ABI: Ankle-Brachial Index(足指上腕血圧比)、TBI: Toe-Brachial Index(上下肢末梢血圧比)の測定を行った。因子分析の結果、Toe-SBP(足指収縮期血圧)およびTBIが抽出され、冷え自覚群をクラスタ分析した結果、34名(冷え)と47名(冷え症)に分類され、さらに、ROC曲線の結果、Toe-SBP(足指収縮期血圧)のカットオフ値は87.86mmHgであった(感度97.1%、特異度91.5%)。また、TBIのROC曲線の結果では、カットオフ値が0.81であった(感度97.1%、特異度91.5%)。</p> <p>以上の結果から、主観的評価である「冷え」に関する質問紙と客観的評価項目TBI、Toe-SBPを組合せることによって症状の定量化の可能性が示唆され、動脈硬化や血流障害などの疾患を発症する前の判別指標として、新しい知見を示しており、意義あるものと考えられる。</p> <p>よって本論文は、博士(医学)の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
最終試験の 結果の要旨	最終試験において、各審査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。 よって、審査員合議のうえ、大学院医学系研究科博士課程の最終試験に合格と決定した。		
論文審査の結果	<input checked="" type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 不合格	最終試験の結果	<input checked="" type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 不合格
論文審査日	平成29年3月8日	最終試験日	平成29年3月8日
チェック <input checked="" type="checkbox"/>	論文審査において、研究指導計画書(研究実施経過報告書)を活用した。		